



『石川県白山麓別当谷安全協議会』を開催しました

～ 手取川上流の別当谷において移動量の多いブロック（土塊）を観測 ～

土砂災害防止のための砂防事業が行われ、かつ、白山登山に利用される砂防新道のある別当谷において、平成22年10月までの1年間に1mの移動量があり調査により移動量の多いブロック（体積 約 9,000m³）が推定されたことから、安全確保・向上を図るため石川県白山麓別当谷安全協議会は情報の共有を行いました。

- 【日時】 平成22年12月3日（金）am10時～12時
【場所】 金沢河川国道事務所
【議題】 別当谷左岸斜面の変状について
その他

〔石川県白山麓別当谷安全協議会とは〕

本協議会は白山麓別当谷上流域において、土石流等の災害に対して、登山者及び工事関係者の安全確保・向上のために協議会構成機関がそれぞれ講じている措置を確認し、情報共有を行うことを目的としています。

〔協議会の構成機関〕

白山比咩神社、環境省白山自然保護官事務所、白山市市民生活部防災安全課、白山市建設部土木課、白山市白峰支所、石川県警鶴来警察署、石川県危機管理監室消防保安課、石川県環境部自然保護課、石川県白山自然保護センター、石川県石川土木総合事務所、白山石川広域消防本部、(財)白山観光協会、(財)白山市地域振興公社、国土交通省金沢河川国道事務所

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所
(河川) 副所長 二俣 秀、流域対策課長 藤田 重敬
Tel : 076-264-9913

別当谷左岸斜面の変状ブロックについて

1. 別当谷左岸斜面の変状ブロックについて

手取川上流の別当谷において、山腹の一部で移動量の多いブロック（土塊）を観測。

ブロックの位置と推定土量

位置：別当谷左岸、平成 18 年 9 月に崩落した斜面に隣接した下流側
推定土量：約 9,000m³、平成 18 年 9 月 15 日の崩壊量と同程度であり、この時は崩落した土砂は直下の沢部に堆積し下流への被害はなし

ブロックの変状状況

10 月に地すべり調査で実施した GPS 測量の結果、観測点 1 点において 1 年間で 1m の移動を観測した。9 月に行った航空測量を精査したところ平成 21 年 9 月から平成 22 年 9 月の間に約 9,000m³ が既に崩落していることが判明。GPS 測量で 1m の移動が観測されたブロックの体積は約 9,000m³ と推測される。



2. 今回の変状ブロックが崩落した場合の影響について

変状ブロックの規模は平成 18 年 9 月の 2 回目の崩落と同程度であり、平成 18 年 9 月の 1 回目及び 2 回目の崩落はともに崩落した土塊は、斜面直下の沢部に堆積した。

なお、融雪期(4～6 月)は雪融け水によりブロックの不安定化が懸念される。

参考	平成 16 年 5 月 17 日	斜面崩壊	176,000m ³
		流出土砂量	97,000m ³
	平成 18 年 9 月 7 日	1 次斜面崩壊	13,000m ³
	平成 18 年 9 月 15 日	2 次斜面崩壊	8,000m ³
	平成 22 年 9 月までの 1 年間に	斜面崩落	9,000m ³

3. 金沢河川国道事務所における変状ブロックの監視について

冬期～融雪期

1) 監視カメラによる監視（現地立ち入りが困難なため）

融雪期以降はさらに以下の監視対策の予定

- 1) 雪融け後の現地確認
- 2) 移動量の計測

4. 石川県白山麓別当谷安全協議会による連携の強化

石川県白山麓別当谷安全協議会を通じて構成機関同士での情報共有を行っています。